

北総の「百庚申」 ～庚申信仰と多数建立の意図を探る～



柏市布瀬路傍の百庚申



鎌ヶ谷市大仏・八幡神社

匝瑳市大浦・路傍の飯岡石の百庚申



印西市笠神社の百庚申

庚申塔とは

庚申待は、60日に1回庚申の夜に、三尸が眠った人間の体から抜け出し天帝にその人の罪過を告げに行かないよう徹夜するという、中国の道教に由来した信仰でした。

室町時代ごろからは、各地で「**庚申講**」が行われ、**庚申供養塔**も建てられました。

中世は「板碑」、江戸時代初期からは、願文を刻んだ板碑型石塔や、**三猿**とともに如来や菩薩像を浮彫した石仏が作られるようになり、寛文期からは、**青面金剛を本尊**とする庚申塔も現れ始めます。

江戸中期には、青面金剛像に、日月や三猿（見ざる・聞かざる・言わざる）、邪鬼や鶏を伴う手の込んだ彫りの石塔が流行、またその憤怒の形相に悪魔退治の願いを込め、村の入り口などに建てられるようになりました。



船橋市鈴見町墓地 寛文4年（1664）

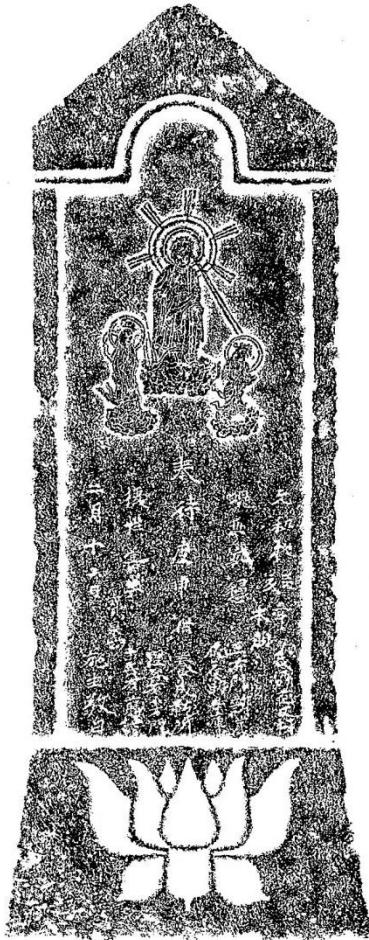


船橋市葛飾本郷の辻 寛文10年（1670）薬師如来像庚申塔 享保20年（1735）青面金剛像塔

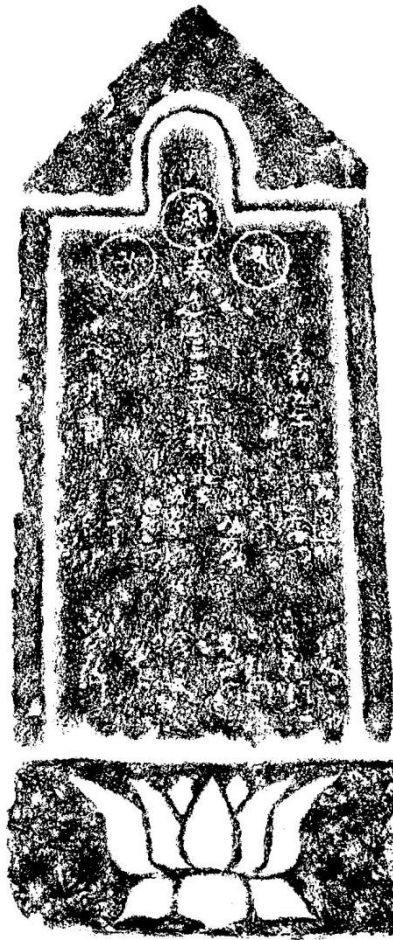


船橋市高根町神明社 青面金剛像塔 文字庚申塔

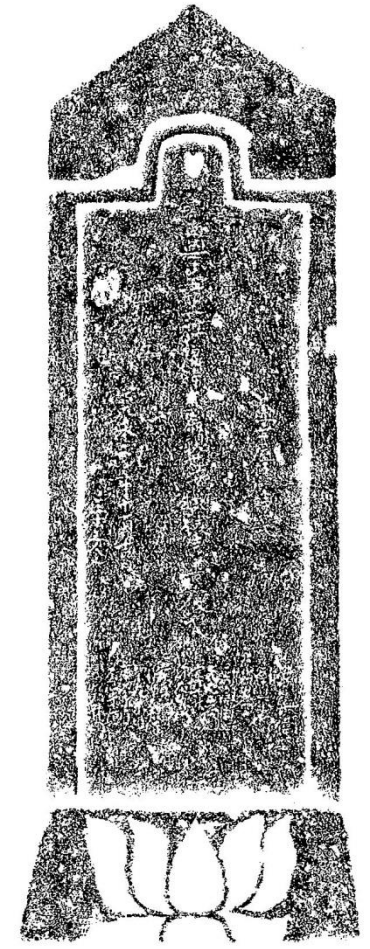
近世庚申塔の関東での初出



足立区正覚院
弥陀三尊来迎塔
元和9年（1623）



三郷市常楽寺
山王廿一社文字塔
元和9年（1623）



松戸市幸谷観音 山王廿一社文字塔
「奉南無山王二十一社庚申祈為
現世安樂後生善處也」
寛永2年（1625）

初期の三猿像を刻む庚申塔



万治3年(1660)八千代市高本八幡神社
「万治三天庚子十月吉日 為庚申待現當二世悉地成就処
講人数十八一結諸衆 敬白」



寛文3年(1663)
佐倉市新町嶺南寺



寛文10年(1670)
佐倉市海隣寺町愛宕神社

初期の如来・菩薩像を刻む庚申塔



佐倉市先崎 慶安3年(1650) 地藏菩薩像
「奉造立庚申人数廿五人／先崎村／
本願友野河内／慶安三天／庚寅／二月廿四日」



船橋市葛飾本郷路傍 薬師如来像
寛文10年 (1670)

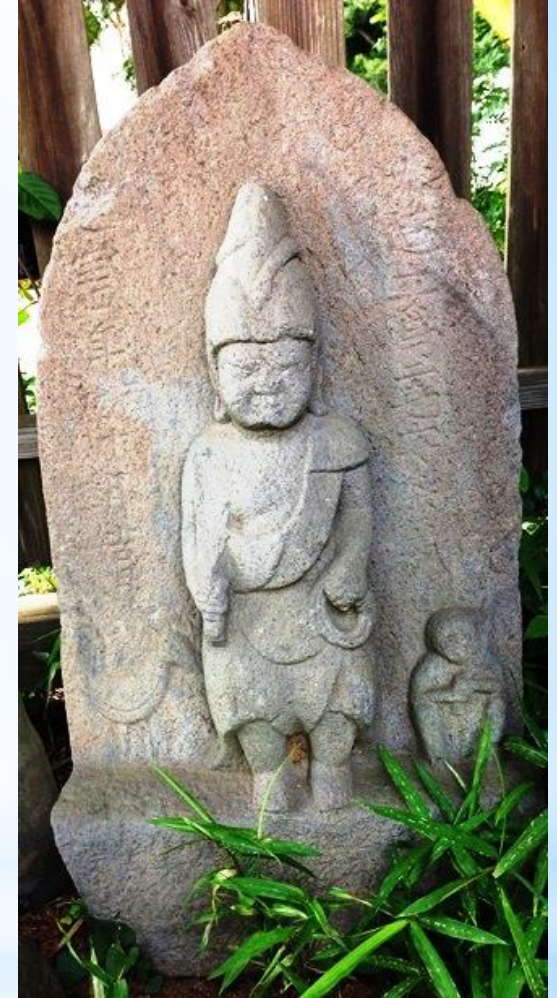


四街道市長岡路傍 阿弥陀如来像
寛文13年 (1673)

初期の青面金剛像を刻む庚申塔 1



印西市砂田庚申堂内 寛文11年(1671)



佐倉市下志津原路傍
延宝4年(1676)

四街道市小名木春日神社 寛文12年(1672)

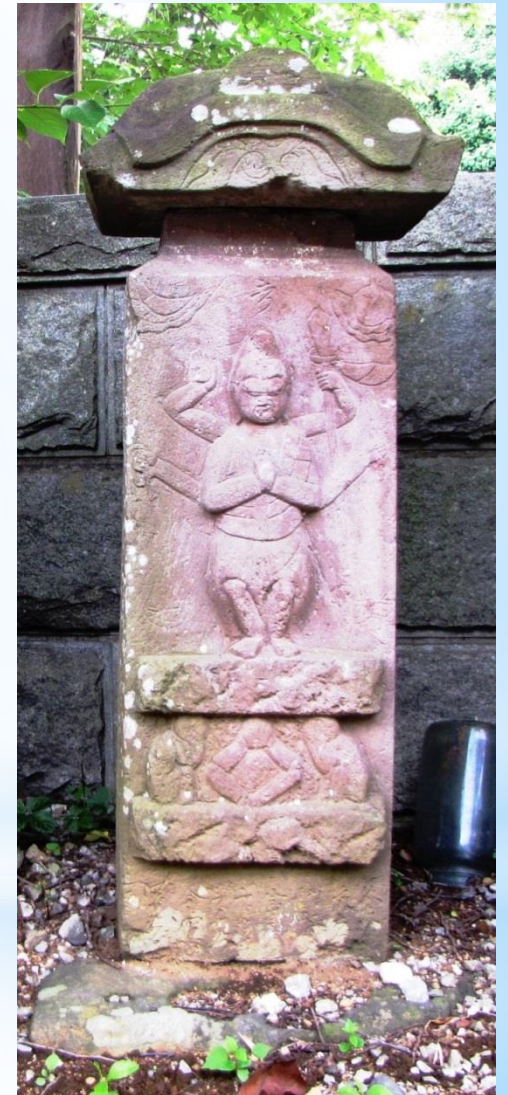
初期の青面金剛像を刻む庚申塔 2



元禄4年（1691）
佐倉市先崎みどり台霊園



船橋市印内八坂神社 元禄11年（1698）



船橋市東町不動院 宝永6年（1709）

複雑化する庚申塔の像容



印西市上町観音堂 元禄13年(1700)
道標を兼ねる



印西市大森長楽寺 正徳5年(1715)



印西市結縁寺青年館 享保17年(1732)

青面金剛像を刻む中期の庚申塔 3



葛飾本郷路傍 享保20年(1735)



高根町神明社 宝暦7年(1757)



本町3丁目覚王寺 安永5年(1776)

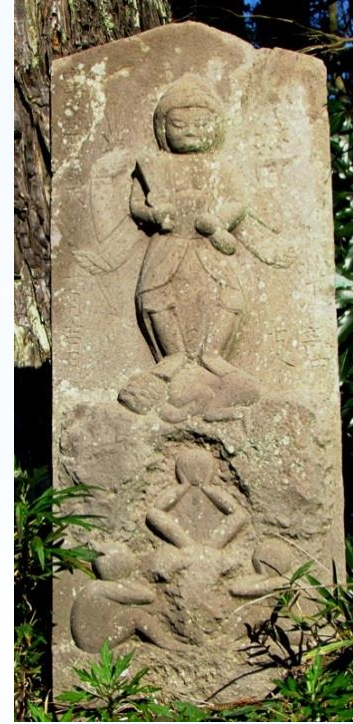
画一的な特徴の青面金剛と三猿像



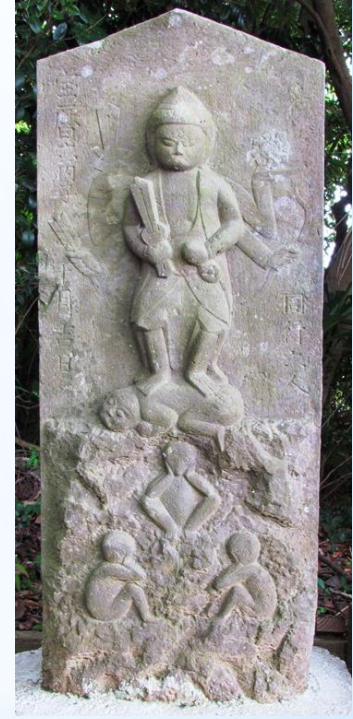
笠神古墳群
寛延2年(1749)



佐野屋八幡神社
宝暦2年(1752)



物木317庚申塚
宝暦4年(1754)



向公会堂
宝暦6年(1756)

印西市域・白井市・船橋市の東部・我孫子市・柏市・栄町で
享保から宝暦年間(1718～1763)に特徴的な庚申塔

- ・主尊の目がアーモンド形
- ・右手に鈴状または人の頭部らしき袋状のものを持つ
- ・宝輪を持つ手が直角で水平
- ・迫力がない邪鬼がうづくまる姿
- ・中央が正面、両端が横向きの三猿像の構図

後期の文字と三猿の庚申塔



佐倉市青菅旧分校 享和3年（1803）



佐倉市小竹三叉路 文化10年（1813）



船橋市印内路傍 文化11年（1814）

北総の百庚申探訪 I



柏市布瀬路傍の百庚申 文政7年(1824)～明治8年(1875) 像塔9基 文字塔94基



印西市浦部の百庚申 天保10年(1839)
像塔10基 文字塔90基

北総の百庚申探訪 II



鎌ヶ谷市大仏・八幡神社 天保12～天保13(1841～1842)



北総の百庚申探訪 Ⅲ



印西市武西の百庚申 武西学園台3丁目 文久3年(1863) 像塔10基 文字塔90基

北総の百庚申探訪 IV



印西市砂田の百庚申 小林・猿田彦神社
天保6年(1832)～明治元年(1866)
像塔10基 文字塔90基



砂田庚申堂内
寛文11年(1671)



北総の百庚申探訪 V



栄町上町の百庚申 慶応2年(1866)
像塔10基 文字塔81基



北総の百庚申探訪 VI



船橋市前原東五丁目の百庚申



右から前列: 青面金剛像庚申塔

- ・享保18年(1733)
- ・延享4年(1747)
- ・享保19年(1734)

- 後列:
- ・文字庚申塔 天保5年(1834)
 - ・二十三夜塔 文政10年(1828)
 - ・文字庚申塔 天保2年(1831)



無年号の「百庚申」塔約70基

北総の百庚申探訪 VII

印西市松虫の百庚申



青面金剛像塔100基を
文政12年(1829)建立

昭和46年に路傍2か所
に再設置
松虫寺山門路傍に50基
杉自塚に50基

計100基が半数ずつ二
つの地点にあります。



北総の百庚申探訪 VII-2



ニュータウン開発前の松虫の百庚申

『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』の写真

北総の百庚申探訪 Ⅷ

印西市笠神笠神社の百庚申



上: 左側(北側)の列の奥には慶應二年塔が並ぶ



慶應三年塔が並ぶ右側(南側)の列



慶應三年塔が並ぶ右側(南側)の列

百庚申の像塔



百庚申 (慶應元年)



(慶應 2 年)



(慶應 3 年)



左側(北側)の列の手前には慶應元年塔が並ぶ



笠神社の百庚申の内訳

- ・慶應元年＝11基(像塔2基:文字塔9基)
 - ・慶應2年＝36基(像塔7基:文字塔29基)
 - ・慶應3年＝30基(像塔7基:文字塔23基)
 - ・年不明＝18基(像塔1基:文字塔17基)
- 計95基
- ・残欠＝5基(像塔1基:文字塔4基)
- 総計＝100基(像塔18基:文字塔82基)＝1:4

北総の百庚申探訪 VIII-4



享保7年(1722)の青面金剛像塔



慶應3年(1867)の百庚申完成記念の庚申塔

笠神社の百庚申以外の庚申塔



その他の文字庚申塔



百庚申の残欠

北総の百庚申探訪 Ⅸ

印西市笠神蕨波鷹神社の百庚申



明治16年(1883)銘の庚申塔と阿夫利神社塔



明治33年(1900)銘の文字塔と像塔

北総の百庚申探訪 IX-2 蘓波鷹神社の百庚申



昭和10年(1935)銘の像塔3基と、無年銘で文字塔30基の計33基

北総の百庚申探訪 IX-3

蘆波鷹神社の百庚申



明治33年(1900)銘の文字塔と像塔



享保18(1733)年の庚申塔
「南無青面金剛尊／同行三十人」銘

昭和10年(1935)銘の文字塔と像塔



明治16年(1883): 文字塔5基と像塔1基の計6基
明治33年(1900): 文字塔17基と像塔2基の計19基
昭和10年(1935): 像塔3基と文字塔30基の計33基
総数60基



百庚申 (明治 16 年)



(明治 33 年)



(昭和 10 年)

北総の百庚申探訪 X 自然石の百庚申



匝瑳市大浦・路傍の飯岡石の百庚申



流山市東福寺の自然石百庚申



東庄町宇賀神社飯岡石の百庚申

北総の百庚申探訪 一石百庚申



印西市松崎・火皇子神社
「庚申百社参詣供養塔」銘
文化13年(1816)
参詣型一石百庚申



八千代市麦丸台・庚申塚
「一百青面金剛王」
文化12年(1815)
百体型一石百庚申

「百庚申」造立の意図

「百」や「万」などの数量信仰



「光明真言百萬遍塔」
文化9年(1812)印西市中根



「一億供養塔」寛政11年(1799)白井市十余一三叉路
「南無阿弥陀佛」の名号、右面に「大もりみち」、左面に「ふさむらみち」、裏面に「寛政十一年／一億供養塔／四月十有五日」、台石に46か村、各村「村中」「講中」「助念佛」や1～190人の講員人数が記された壮大な供養塔。



百堂供養塔 元禄13年(1700)利根町徳満寺
「奉造立百堂供養二世安樂所」銘
「百堂供養」とは、農閑期に近隣の祀堂など百の堂宇を巡拝し念仏を唱える行事で、これは100カ所巡拝した記念に建てた供養塔



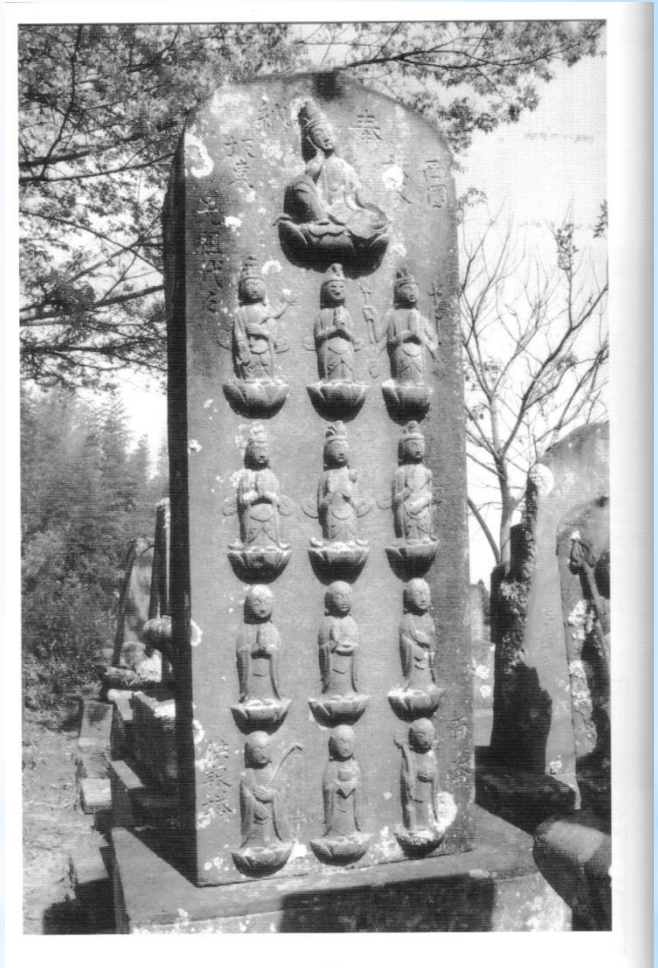
「百庚申」造立の意図 多石建立&多像彫刻の例



東総の路傍の道祖神群

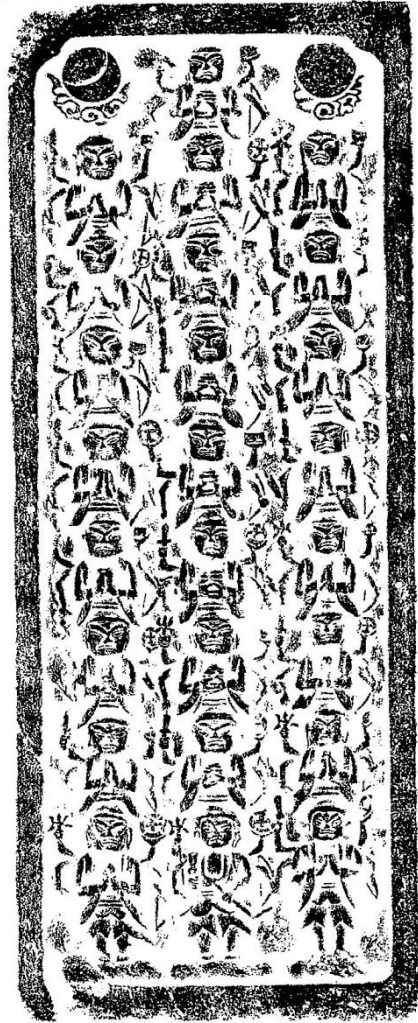


八千代市吉橋貞福寺の
四国八十八ヶ所石塔群

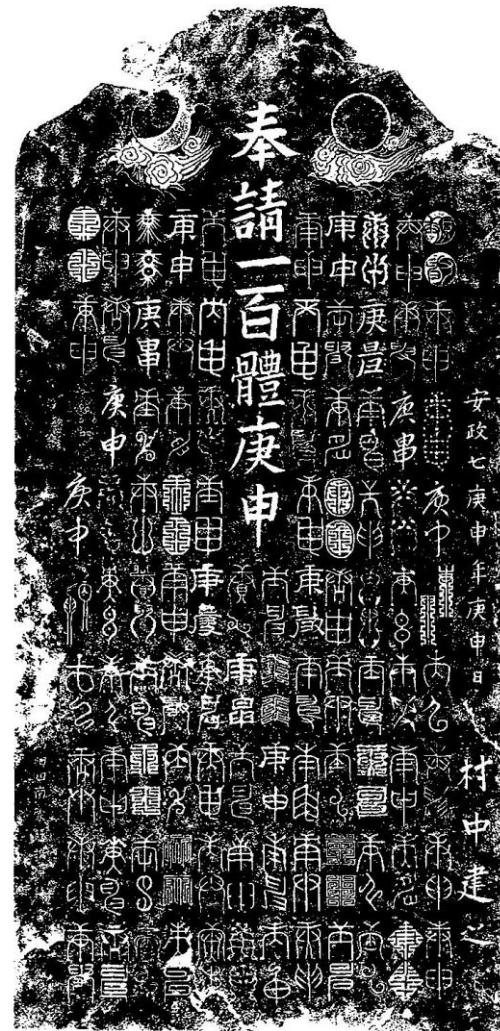


百番供養塔 寛政4年(1792)
成田市芦田証明寺跡
「奉納西国秩父坂東百番供養塔」

百体型一石百庚申



群馬県倉洲
百体青面金剛塔
寛政六年銘(1792)



長野県野底「奉請一百體庚申」
百書体庚申塔
安政7年銘(1860)



群馬県総社町御霊神社
「猿田彦大神」百書体庚申塔
万延元年(1860)

一石百庚申塔(「百庚申」銘型)と、千庚申塔



足利市大前町 入東 庚申山



栃木県佐野市田沼町



白井市復 八幡神社前庚申塚

(いずれもHPから)

一石百庚申の銘から探る「百庚申」造立の意図

(北総の11例の一石百庚申を例に)

・「百」の意味は、北総地方に根強い信仰のある百万遍念仏、百堂念仏、百観音巡礼など暮らしに息づく「百」の思想による。

・石材産出のない北総では、「イシダテ」行事や八十八箇所ミニ霊場など、多塔建立が尊重される

①「参詣」型

「庚申百箇度参大願成就」: 寛政12年(1800) 柏市布施弁天の石塔

「庚申百社参詣」: 文化13年(1816) 印西市松崎・火皇子(ひのおうじ)神社

= 百庚申の成立は、ミニ霊場「百庚申参り」の成立 (一か所で「百庚申参り」ができ、十か所回ると「千庚申参り」が可能。野田市内には「千庚申」「万庚申」銘がある。)

②青面金剛百体や「庚申」百文字を刻む「百体」型

北関東や信州で、「庚申」文字を百字刻んだ塔が幕末に流行。北総では東庄町小貝野向地共同墓地に1基のみ。

「大青面金剛百体庚申」「一百青面金剛王」銘の簡略型の塔がある。

③「百庚申」銘型

関東の「百庚申」は、自然石に単に「百庚申」とだけ刻んだ一石百庚申が一般的だが、北総では匝瑳市高野の一例のみ。

白井市復の「奉納百庚申塔」、野田市中里との東金野井の「百庚申供養塔」銘の百庚申塔があるが、これらを含め一石百庚申の数は少ない。

石塔数が多くて迫力のある多石百庚申や、野田市の事例のような「千庚申」銘の方が、有難味があるように思われたためか、一石百庚申は、北総ではあまり普及しなかった。

おわりに : 多石百庚申の現状

1.文化財・観光名所として百基並ぶ景観が保存されている事例

- ・印西市浦部
- ・鎌ヶ谷市大仏八幡神社
- ・柏市布瀬路傍

2.原形をとどめない百庚申

- ・我孫子市岡発戸(おかほっと)八幡神社(残欠として積み上げ)
- ・柏市高田の正徳寺(無縁塔に収納)

3.移転・移動されて景観保存されていない百庚申

- ・松戸市大谷口の神明神社(2か所分を一緒に)
- ・印西市松虫(半数ずつ二か所に分けて移転)

4.周りの環境の変貌に往時の姿を失いつつある百庚申

- ・印西市武西

百庚申は、柏市布瀬路傍の百庚申のように、ムラ往還に列をなして並ぶ姿にこそ、民間信仰を物語る文化財としての価値があり、その調査と共に保存のあり方も問われている現状です。